

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 3 月 5 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 202-0021

所在地 東京都西東京市東伏見3-5-36-101

評価機関名 有限会社 TCP

認証評価機関番号 機構 06 - 166
電話番号 042-452-8021
代表者氏名 鈴木 純平

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	渡邊 敦子	福祉	H1801083
	②	葛西 慶子	福祉	H1801089
	③	水谷 和美	経営	H2301010
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	もりのおがわ保育園			
事業所連絡先	〒	194-0003		
	所在地	東京都町田市小川1-11-2		
	TEL	042-788-7025		
事業所代表者氏名	施設長 木川 誠之			
契約日	2024 年 7 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 9 月 19 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 1 月 16 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 9 月 19 日			
自己評価結果報告日	2025 年 1 月 16 日			
訪問調査日	2025 年 1 月 17 日			
評価合議日	2025 年 3 月 5 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	経営層および職員の事前説明には、評価の理解を深めて頂く為、評価の全体像や記入要領等を用いた判りやすい資料を作成し、配布しました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果には、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表によるできるかぎりわかりやすいとりまとめを行いました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名 もりのおがわ保育園 木川 誠之 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)保育理念 子ども一人ひとりを大切にし、保護者からも地域からも信頼される保育園を目指す 2)保育方針 子どもの主体性を大切にし、ひとりひとりの発達に対して寄り添い、丁寧な保育を行う 3)ひとりひとりの育ちを大切にし、生活の中で遊びながら学ぶこと、成長することを楽しめる環境を整え、人間関係の基礎づくりを行う 4)職員間の調和を大切にし、お互いを尊重をし合える職場づくり 5)地域の子育て支援を支え、子ども達の安心の場としての保育園として地域の担い手となる
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 子どもの成長や発達、そして個性を大切にし、ひとりひとり丁寧に保育することを心がける。 ひとへの想いやりを大切にし、お互いを尊重し、働きやすい職場を作る。リーダー層には、日々の保育だけではなく、職員間のマネジメントを行い、園全体のバランスをとる役割を担う。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 1. 良い仕事をするとは、人間としての使命である。曖昧な気持ちでは良い仕事はできない。保育は福祉の仕事であることを理解し「子どものために」という目的意識をもって働く。 2. 職員各自の特技を生かし、互いに意見を出し合い、一人ひとりがテーマをもって保育にあたる。 3. 自分の担当クラスだけでなく園全体にも目を向け、職員ごとの連携もうまくなりあう。また、雑務も積極的に行う。 4. 職種、正規、パートに関係なく、責任をもった仕事をする。

調査対象

調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。なお、利用者総数(121名)に対して、世帯数は100世帯となっています。

調査方法

園より保護者全員に利用者調査案内を配布して頂きました。アンケートは基本WEBアンケートで、希望者には紙での配布もいたしました。アンケートの回収については、WEB上で評価機関へ提出して頂くか、もしくは、郵送で投函して頂くようにしました。

利用者総数

121

利用者家族総数(世帯)

100

共通評価項目による調査対象者数

100

共通評価項目による調査の有効回答者数

68

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

68.0

利用者調査全体のコメント

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか」との質問に対して、「大変満足」58.8%、「満足」39.7%、を全て足すと98.5%の回答率となっており、園に対してほとんどの保護者が満足している状況がうかがわれます。個別の項目についても「はい」と回答している結果が多く、満足している状況がうかがえました。特に、「園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか」などは、「はい」の回答率が100%と満足度が高い結果でした。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	67	1	0	0
この項目では、67人が「はい」と答え、全体の99%を占め、「どちらともいえない」が1%、「いいえ」が0%という結果でした。また、自由記入の結果では、確実に保育園のおかげでできることが増えているし、子どもの良いところを伸ばしてくれていると感じている、家ではできない泥遊びや思いっきり絵の具で遊ぶ機会を提供してくれたり、生活におけるルール(洋服をたたむ、しまうなどの基本的動作)を日々の保育の中で習得しているなどの声が聞かれました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	68	0	0	0
この項目では、68人が「はい」と答え、全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%という結果でした。また、自由記入の結果では、園の影響は大きく遊びややったことは楽しそうに話をしてくれている、体を動かしたり作品を作ったり心身ともに刺激的な日々を過ごせているように感じる、、いっせー活動だけでなくその子の興味関心に応じた遊びの時間を提供してくださっているなどの声が聞かれました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	67	1	0	0
この項目では、67人が「はい」と答え、全体の99%を占め、「どちらともいえない」が1%、「いいえ」が0%という結果でした。また、自由記入の結果では、毎月の献立表をととても楽しみにしている、なかなか食べなかったり噛む発達の状況に合わせた工夫をして提供してくれる、食事がとても美味しく、菜も家よりずっと楽しめていると子どもから聞いている、大人でも触れ合えない食文化にも触れられているなどの声が聞かれました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	67	1	0	0
この項目では、67人が「はい」と答え、全体の99%を占め、「どちらともいえない」が1%、「いいえ」が0%という結果でした。また、自由記入の結果では、定期的にバス散歩があり季節の行事を行ってくださっている、園周りや近くの公園に外遊びに行けているのは良い経験になっている、公園などに向かう際の道の歩き方も学んでいるかと思うなどの声が聞かれました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	53	3	1	11
この項目では、53人が「はい」と答え、全体の78%を占め、「どちらともいえない」が4%、「いいえ」が1%という結果でした。また、自由記入の結果では、家族の都合での急遽のお願いにも快く引き受けてくれる、会社都合で遅くなる場合でも柔軟に対応いただいているなどの声が聞かれました。また、まだ延長をお願いしたことがない、利用時間を変更したことがないなどの理由で「はい」以外の回答がありました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	51	15	1	1
この項目では、51人が「はい」と答え、全体の75%を占め、「どちらともいえない」が22%、「いいえ」が1%という結果でした。また、自由記入の結果では、毎朝、除菌をしてくれ何かあった時に随時報告してくれるため安心できるなどの声が聞かれました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	60	6	2	0
この項目では、60人が「はい」と答え、全体の88%を占め、「どちらともいえない」が9%、「いいえ」が3%という結果でした。また、自由記入の結果では、早めにお知らせをくれるので助かる、基本的に土に開催されているため参加しやすいなどの声が聞かれました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	65	3	0	0
この項目では、65人が「はい」と答え、全体の96%を占め、「どちらともいえない」が4%、「いいえ」が0%という結果でした。また、自由記入の結果では、子どもの様子やできるようになったことを報告してくれるため子どものことを理解してくれているように感じられるため相談しやすい、担任の先生が子どものことを本当によく見てくれていると感じている、担任以外の先生も話しやすい先生が多い、コミュニケーションを取ろうとしてくれる姿勢もありこれからも続けて貰えれば嬉しく思うなどの声が聞かれました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	59	8	1	0
この項目では、59人が「はい」と答え、全体の87%を占め、「どちらともいえない」が12%、「いいえ」が1%という結果でした。また、自由記入の結果では、午睡時によくパートの方が清掃をしているのを見かけているのでパッと見の綺麗さではない所でしっかり清潔にされていると思う、遅い時間に床を隅々まで拭き掃除しているようすを拝見している、毎朝、原状回復されている園内に安心を感じるとともに除菌や清掃もよくされている様子も見られるので安心できるなどの声が聞かれました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	56	10	0	2
この項目では、56人が「はい」と答え、全体の82%を占め、「どちらともいえない」が15%、「いいえ」が0%という結果でした。また、自由記入の結果では、毎日すれ違えば挨拶してくれる先生ばかり、日ごろから柔らかい言葉遣いで接してくれているなどの声が聞かれました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	59	7	2	0
この項目では、59人が「はい」と答え、全体の87%を占め、「どちらともいえない」が10%、「いいえ」が3%という結果でした。また、自由記入の結果では、本当に体調が悪くなったりすればすぐ電話をくれる、ケガをした時させてしまった時も細かく伝えてくれて助かっている、看護師と相談してくれているため何かあった時も迅速に対応してもらえると信頼できるなどの声が聞かれました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	48	12	1	7
この項目では、48人が「はい」と答え、全体の71%を占め、「どちらともいえない」が18%、「いいえ」が1%という結果でした。また、自由記入の結果では、トラブルがあった時に対応策を用意してくれているため安心できた、何かあった時に誰がダメではなく原因や解決策など説明してくれると信じているなどの声が聞かれました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	62	6	0	0
この項目では、62人が「はい」と答え、全体の91%を占め、「どちらともいえない」が9%、「いいえ」が0%という結果でした。また、自由記入の結果では、子どもを見ていればわかる子どもは先生のこと大好きだと思う、子どもの意見や人権を尊重して保育をしてくれているととても感じる、子どもたちのことをよくみてくれているので気持ち面も理解しているように感じているなどの声が聞かれました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	61	4	0	3
この項目では、61人が「はい」と答え、全体の90%を占め、「どちらともいえない」が6%、「いいえ」が0%という結果でした。また、自由記入の結果では、何かあれば話し方に配慮してくれたり別室にて説明してくれたりするので安心してお話できるなどの声が聞かれました。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	59	9	0	0
この項目では、59人が「はい」と答え、全体の87%を占め、「どちらともいえない」が13%、「いいえ」が0%という結果でした。また、自由記入の結果では、その日の活動が写真付きで掲示されていてわかりやすい、日々の様子を細かく毎日送ってくださるので状況を把握しやすいなどの声が聞かれました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	51	7	1	9
この項目では、51人が「はい」と答え、全体の75%を占め、「どちらともいえない」が10%、「いいえ」が1%という結果でした。また、自由記入の結果では、耳をしっかりと傾けてくれる先生がいるので担任が外れてからもよく話を聞いてくださる、何かあった際にもしっかりと真摯に向き合いご返答をいただけるように感じているなどの声が聞かれました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	22	16	8	22
この項目では、22人が「はい」と答え、全体の32%を占め、「どちらともいえない」が24%、「いいえ」が12%という結果でした。また、自由記入の結果では、そういった状況になったことがない、説明があったが失念しているだけかも知れないなどの声が聞かれました。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準项目实施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	保護者に園への理解が深まるよう理念・方針等を伝え、職員は保育の基本としています 園が大切にしている「4つのやくそく」をホームページに掲げ、園の保育理念や保育方針、保育目標を「全体的な計画」や園のしおりに記載しています。入園時の保護者説明会では園のしおりを基に説明し、年度末のクラス懇談会では年間の振り返りとともに次年度の園運営と、年度初めの懇談会では1年間の保育のねらい等にも触れ、保護者に園のめざす保育を伝えていきます。職員には、入職時のオリエンテーションで園編纂の「保育の手引き」を配付して、園の理念・方針、保育について共通理解のもと業務にあたるよう丁寧に伝えていきます。	
	「保育の手引き」「職員の心得」で職員と園の経営層の役割、責任を伝えていきます 園の経営層は園長と主任、副主任が担い、園運営にあたっています。園長をはじめとして所属、担当ごとの職務内容は「保育の手引き」で明文化し、職員に配付しています。園長は施設全般の運営・管理、職員の監督・指導を行ない、主任や副主任とともに職員会議や日々の保育等を通して職員に適正かつ安全な保育の実施を促しています。また、年度初めには、「職員の心得」を配付して、職員のあるべき姿を伝えていきます。そのほか、職員との個別面談を行なって一人ひとりに期待すること等を伝え、日ごろのコミュニケーションでも保育の共有に努めています。	
	重要案件は職員による検討と決定、周知に努め、保護者にも有効な方法で周知しています 園の重要な案件を決定する際には、まず園の経営層を中心に検討し、その後職員の全体会議で検討、決定しています。また、案件により、リーダー会議や乳幼児会議でも検討と共有を行なっています。全体周知事項は決定経緯等も含め、全員の共通理解の徹底に努めています。迅速に共有が必要な場合は、昼礼や声かけ、ノートへの記載を通して周知に努めていますが、より密な連携と状況把握も必要と園長は感じています。保護者への周知は、保育アプリを利用した配信や一斉メール等のほか、場合によっては配付物や掲示など有効に伝わる方法を選択しています。	

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 カテゴリー2		
サブカテゴリー1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6 / 6		
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当 評価 標準項目		
サブカテゴリー2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5 / 5		
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当 評価 標準項目		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当 評価 標準項目		
カテゴリー2の講評 保護者の意向や職員の提案、地域や業界の情報を踏まえ、園の運営方向を検討しています 保護者も参加する行事後のアンケートの実施結果や日ごろの会話などから、保護者の意向の把握に努め、いずれも職員間で共有するとともに、課題を抽出するよう努めています。職員の意見や提案は、会議と日ごろのコミュニケーションから捉えるよう努め、特に行事等の企画では職員の意欲が反映されるものになるよう運営しています。また、園の所在する地域の子育て会議や園長会への出席、自治体からの情報提供などで、地域の状況把握に努めています。そのほか、法人との情報共有、系列園園長会の実施で、業界動向とともに経営状況を共有しています。 法人の中長期ビジョンのもと園の事業計画を策定し、実施後は事業報告を作成しています 法人が定める中長期のビジョンのもと、園の単年度事業計画を策定しています。事業計画は園長が2月に次年度の計画を策定して、法人の承認を得ています。施設運営のための体制を明確にし、保育について各クラスの保育目標、行事予定、給食と栄養管理、安全管理について明示しています。また、職員の育成、施設管理、地域連携などについても年間を通して取り組む指針を明記しています。実施後は4月頃に事業報告を作成し、法人に提出しています。園の予算は予算書と物品購入表を基に管理し、必要な購入は園長が稟議を法人にしています。 保育と行事について、計画の策定、実践と振り返りを行ない、アプリで共有しています 園の事業計画については「全体的な計画」へと反映し、職員会議等で職員に周知しています。クラスごとの保育目標と「全体的な計画」を基に、年間指導計画を各クラスで作成し、経営層で確認しています。指導計画は各クラスで振り返りを行なって、記録しています。計画と振り返りは保育支援のアプリ内で管理し、園内で共有されています。改善点があれば、次の計画策定時に反映しています。行事についても起案書を作成し、実施後は振り返りを実施しています。さらに事業計画について、職員の策定時の参画と振り返りでの職員意見の反映にも期待します。		

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー3の講評
	園の職員として守るべき倫理等を明確にして、職員はその実施を定期的に確認しています 園の職員として守るべき行動や倫理等を「保育の手引き」「職員の心得」で明確にし、入職時や年度初めの職員会議で確認しています。特に「職員の心得」は、社会の情勢や園内の状況を踏まえ、内容について毎年見直しを行ない、より職員が理解しやすい記述となるよう努めています。また、園内研修の実施などで、社会人・保育士として守るべきことについての理解が深まるよう取り組んでいます。適切な保育が実施されているか、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を使って、年の途中に職員が自己点検を実施して、結果は職員間で共有しています。 子どもと保護者の権利擁護のため、意向把握と権利侵害の防止に努めています 苦情解決制度について、入園時に配付する入園のしおりに記載して保護者に説明するとともに、園内に掲示しています。苦情解決規程が法人で作成されており、苦情や相談があった際には、保護者の意見を傾聴し速やかな対応と共有に努め、経過とともに原因・対策等を記録簿に残し、職員間で共有するほか、法人にも報告しています。園内の虐待防止と虐待発見時の早期対応のため、法人で虐待防止マニュアルが整備されており、事務室に置いて職員間で随時内容を確認し、発見時には関係機関との連携をとる体制が整っています。 園情報の発信、把握した地域ニーズに応える子育て支援事業の実施に努めています 園の大切にしていること「4つのやくそく」をはじめ、園の概要、1日の流れ、年中行事などを園のホームページに掲載しています。次世代の保育と福祉への理解を深めるため、実習生や小中学生の体験学習、ボランティアを受入れています。また、子育て家庭の転入増加に伴う福祉ニーズに応じて、一時保育にも対応しています。園で行なうひろば事業では、さまざまな子育て支援イベントに地域の方に多く参加してもらっています。さらに、子育て連絡会での地域の子育てマップ作成を協働で行なうなど、地域ネットワークの活動に参画しています。

4	カテゴリー4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	
	●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	
	●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	
	●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
サブカテゴリー2(4-2)			
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている		
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している		
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		
カテゴリー4の講評			
マニュアルを整備し、発生の可能性が高いリスク等にさまざまな対策を講じています さまざまなリスクに対して、園独自の危機管理マニュアルを備え、とくに事故やケガ、感染症は園で発生する可能性の高いリスクとしていろいろな対策を講じています。園内事故防止マニュアルと事故発生対応マニュアルから抜粋した内容で、園内研修でも適切かつ速やかな対応ができるよう努めています。事故の発生には記録を残し、原因分析を行なって再発防止に努めています。また、日ごろよりヒヤリハットについては、危険につながる場所や事象について掲示などで職員間に共有し、会議、昼礼等でも対策を検討対応しています。 避難訓練の実施と事業継続計画について理解を深めることで、安全確保に努めています ハザードマップを基に地形的なリスクを把握し、地盤の安定や水害リスクの低さを確認しています。火災や地震、侵入等について避難訓練を計画的に実施しています。特に、避難時の職員と子どもの動線に重点を置いて確認しています。訓練実施後は振り返りを行ない、課題を確認しています。また、地震や風水害などの自然災害と感染症について、事業継続計画(BCP)を策定しています。事前対策とBCP発動時の対策それぞれを明記しています。BCPについては、職員会議でもその重要性について、園長より職員一人ひとりが理解を深めるよう伝えていきます。 個人情報の機密文書や電子データは、職員に適切な管理の周知徹底を図っています 機密文書等の保管と廃棄についてはルールを事務室に掲示して、職員間で徹底に努めています。個人情報を含む機密情報は、書類については事務室の鍵のかかる棚で保管し、データ類については保育支援アプリを利用した高いセキュリティのもとで管理しています。取り扱いPC等の機器も含め適切な管理を徹底しています。個人情報保護規程を定め、その運用や個人情報保護について職員は入職時のオリエンテーションで学んでいます。個人情報の収集と利用目的、その取り扱いについて、保護者には入園時に説明し同意書に署名をもらっています。			

5			カテゴリー5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリー1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる			○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○非該当
サブカテゴリー2(5-2)				
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている			○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる			○非該当

	カテゴリー5の講評
	園の想いを伝えることに努めながら、人材確保と職員の配置、育成に努めています 職員の採用は園が主体となっており、園のホームページに採用について掲載するほか、人材紹介会社への登録等を行なっています。園の採用サイトでは、採用までの流れをわかりやすく紹介し、園の方針を伝える動画を掲載しており、応募フォームも用意しています。採用に際しては、面接で幼児教育など園として大切にしていることや園の状況を伝え、互いに入職後の捉え違いがないよう相互理解に努めています。入職後は面談などで職員の意向を確認しつつ、ワークライフバランスと必要とされるスキルに配慮した配置と異動、職員の育成に努めています。 成長段階ごとに必要とされる資質と能力を明確にして、人材育成に努めています 年度の事業計画内で人材育成について明示し、保育者として経験と実践に応じた成長段階で求められる資質と能力をキャリアステージとして明確にしています。キャリアアップ研修、自治体主催の研修等から受講が必要なもの、個人の意向などにも配慮して個別の研修計画を毎年策定し、受講の機会が均等に作れるよう努めています。受講後は研修報告を作成するほか、職員会議で受講内容の共有や保育への実践等について受講者から話す機会を作っています。新入職者はOJTで学び、リーダー層も園経営層と話し合い適切な指導となるよう配慮しています。 職員一人ひとりの意欲を大切にし、コミュニケーションの活性化に努めています 職員一人ひとりの自己評価を踏まえた人事考課を行ない、評価結果や職員への期待について面談で伝えていきます。職員の自己評価は年2回実施し、年度末の評価では年間の振り返りと次年度に向けた目標設定や取得したいスキルを明確にするなど、能力向上への意欲へとつながるよう図っています。職員のワークライフバランスに配慮した業務、休暇取得等を促しています。また、園内研修にタイムリーなテーマを設定するほか、一人ひとりの発言が活発になるようグループワークを取り入れています。職員間のコミュニケーションを大切に取組むこととしています。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1			
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)			
園体制の変化とともに若い職員も増えており、効率的な園運営のための職員配置と安定した職場づくりを目標としました。職員にとっても働きやすく自己研鑽できる環境づくりと、子どもの人権を尊重し主体的な活動を多く取り入れられる保育に重点をおきました。 年間を通して、積極的な採用と職員配置、また職員間のコミュニケーションが行なわれるよう取り組みました。 職場の安定は見られましたが、次年度以降も職員体制の変更が予定されていることから、引き続き園の保育力向上へとテーマをスライドさせながら取り組むこととしています。			
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評			
効率的な園運営のための職員配置と安定した職場づくりを目標として、年間の取り組みを実施しました。 職員配置には、職員一人ひとりの意向に配慮しつつ、子どもにとって最善なクラス運営となるよう、職員の得意なことを生かせる配置に留意しました。また、安定した職場づくりのうえでかせない職員間の連携をより深めるため、コミュニケーションが活発となるよう取り組みました。特に、異年齢保育を実施するうえでの3～5歳の幼児クラス間の連携に着目し、会議のもち方に配慮しました。 定職率の向上につながり、若い職員からの発言も聞かれ自ら動く様子も見られるようになりました。また、研修受講にも積極的に自己研鑽による能力の向上への意欲も見られています。 PDCAサイクルを意識した改善活動が実施されています。今後はさらに、目標に対して年度末のめざすべき姿をさらに明確にし、その達成具合をどのようにして測るのかも具体的に定めたうえで、年間の取り組みに臨まれることを期待します。そのための職員間での検討にも期待します。			

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

新型コロナウイルスの5類移行に伴い、さまざまな活動について再開するうえで、地域との交流活動の改めでの活性化を目標としました。なかでも、幼保小施設との交流に取り組みました。

取組としては、コロナ禍前から実施していた小学校との交流を1校から2校に増やすほか、卒園児の小中学生との交流、幼保小連携会議での話し合い参加等の実績がありました。

「保護者からも地域からも信頼される保育園」は園の保育理念でもあり、継続して園運営の目標として取り組むこととし、次年度は地域交流とともに保護者との距離を縮めることに重点を置くこととしました。

目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

新型コロナウイルスの5類移行に伴うさまざまな園事業の再開として、地域との交流活動の改めでの活性化を目標とし、特に幼保小との交流と連携に取り組みました。

幼保小連携会議は対面式で行なえるようになり、より密な連携のもと、卒園後の支援につなげられるよう話し合いをはじめました。就学に向けての小学校との交流は交流先を一校ふやして取り組みました。また、卒園児を夏休みのボランティア体験で受入れ、兄弟児が多いこともあり活動が盛り上がりました。さらに中学生になった卒園児の職場体験を通じて、継続した支援につながりました。

再開直後の交流活動として、再開と新規取組、それぞれに実績を上げることができました。次年度以降はさらに保護者も巻き込んだの交流活動にも発展させて、保護者との関係性をより近いものとするよう検討し、継続していくこととしています。

PDCAサイクルを意識した改善活動が実施されています。今後はさらに、目標に対して年度末の目ざすべき姿の明確化、その達成具合の検証方法の検討、そしてどのように取り組むかを職員間で話し合う機会を作ることに期待します。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評			
ホームページ、パンフレットを用いて園の情報を提供しています 園のホームページでは、動画による園長の園紹介をはじめ、園の保育の特徴、園生活の様子を掲載し、ブログのページで子ども達の活動の様子の写真を用いて紹介し、視覚的に園の情報が伝わりやすいように工夫しています。さらに、園のA3サイズを3つ折りにしたパンフレットには、イラスト、写真を用いて保育のねらい、保育園の一日、保育園での除去食、園の概要、年間行事、子育て広場(育児相談・一時保育)、園へのアクセスなどを記載しています。園のブログは定期的に更新していますが、園ではより発信数をふやしたいと検討中です。 園の子育て支援事業等を行政と連携して地域に紹介しています 園長は、市の園長会や子育てネットワーク会議などの関係機関と、園の空き情報や子育て世代の家庭の状況などの情報交換をしています。そして、地域の児童福祉の動向や保育ニーズを把握して園の運営に生かせるように工夫しています。「まちだ子育てサイト」「町田市子育て広場カレンダー」などからも園の情報を確認することができるようになっています。子育てひろばカレンダーには、マイ保育園事業実施園であることや、園で行なっている園内開放、育児相談、誕生会などのイベントへの参加について、日時を利用希望者に向けて情報提供しています。 保育所体験、園見学を実施して、園の保育を紹介しています 園見学は問い合わせの電話を受けて、見学希望者と相談して決めています。園見学の時間帯は子どもの活動の様子を見てもらえる10時から10時30分、1回あたり4、5組を対象にしています。見学者には主任が対応し、園のパンフレットを渡し、子どもの作品や、掲示物を見てもらいながら園の雰囲気を感じてもらえるように案内をしています。利用希望者からの質問には丁寧に対応して、見学終了後には意見交換の時間を設けています。また、保育所体験時にも園見学を実施していますので、利用希望者にはマイ保育園登録をお勧めしています。			

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
入園に際して個別の面談を通じて情報を職員間で共有しています 入園が決定した保護者は、入園に必要な書類一式を記入のうえ入園説明会終了後に、個別面談を行なっています。重要事項説明書の内容を園長が説明し、個人情報使用の同意、重要事項説明書の確認について書面をもって保護者の承諾を得ています。面談時は、アレルギーなどの確認については看護師、栄養士など専門職も必要に応じて参加しています。職員は、入園までの子どもの生活状況や家庭の意向などを聞き取り、書類の内容を確認し、気になる事はメモをして、職員間で情報を共有して、入園後の保育の参考にしています。 短時間保育の期間を設けて、子どもが無理なく園生活に親しめるように配慮しています 子どもが新しい環境に親しめるように、1週間を目途に短時間保育を実施しています。短時間保育の日程は、保護者の就労時間や子どもの集団生活の経験などを考慮して、個別に実施しています。子どもの食事、排泄、睡眠などの様子は、緩やかな担当制で、子どもの気持ちの安定と職員との愛着関係が育まれるように配慮しています。保護者に連絡帳だけではなく口頭でも、その日の子どもの活動の様子を伝え、保護者からは、家庭での子どもの生活の様子を聞き、園と家庭で連続した保育が実施できるように情報を共有することを心がけています。 子どもの育ちは、園を離れてからも継続できるように配慮しています 転園などで園を離れる場合は、在園中の製作帳とクラスの集合写真を渡して思い出を作っています。また、保護者の要望がある時は、就学支援シートを作成して保護者の不安軽減と、園を離れた後もいつでも相談に来られる事を伝えています。在園児にきょうだいがいる場合は、保護者が園に来たときに卒園児のその後の様子を聞くなどして、子どもの育ちを見守っています。また、年長児からは体育クラブ活動(課外クラブ)があり、1年生になった時も継続している子どももいるので、保護者とも交流を通じて子どもの様子を聞くことができる機会があります。		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
入園前、在園中の子どもの情報は統一した書式にまとめられています 法人統一の書式とそれを基本にした園独自の書式に、個々の必要情報を記載しています。入園前の面談で家庭の意向などを確認し、入園時の健康診断結果、家での子どもの様子などの情報を把握し、書式に記入しています。入園後は、個人面談や日々の送迎時の会話や連絡帳を通じて子どもの様子を把握しています。0～2歳児は個人別指導計画を作成し、3歳児以上も必要に応じて指導計画を作成しています。また、児童票には、子どもの成長の過程を、乳児は1か月ごと、幼児は1年を2期に分けて記録して、子どもの保育の対応について職員間で周知しています。 全体的な計画を子ども一人ひとりの指導に反映できるように各指導計画を作成しています 法人の保育理念、保育方針、保育目標と園職員の声を集約し、各年齢に沿った養護と教育を踏まえた「全体的な計画」を作成しています。そして、これを基に年間の年齢別保育計画を作成し、毎月の指導計画と週の計画に連動しています。指導計画は園長・主任が確認、見直しを行なっています。各指導計画は保育のねらいを各期間で振り返り、次の計画に反映しています。保護者には、年度初めの懇談会で育ちの目安、クラスの方角性を伝え、園だよりやクラスだよりでクラスごとの目標とそれに伴う活動内容を記載することで、指導計画をかみ砕いて伝えています。 園業務、保護者の情報はノート、記録、会議で共有して、園全体で周知しています		

子どもたちの情報や指導方法を共有するために各会議やノートを活用しています。職員は出勤時に、「昼礼簿」「毎日メモ」連絡帳を確認し、日中の子どもの体調、保護者からの連絡事項等を確認しています。また、子どもの情報や指導の方向性、行事の運営などを周知するために、クラス会議、乳児・幼児会議、リーダー会議、職員会議を設け、子どもの指導については、クラス以外の職員の意見も取り入れ、多角的に子どもを把握し、子ども一人ひとりに見合った指導計画につなげています。子どもの指導計画は園内保育システムで全職員で共有しています。

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
入園に際して、個人情報についての確認をしています 園での活動の写真など園で取り扱う個人情報については、入園面談時に説明し家庭の意向に配慮し保護者の承諾を得ています。子どもの羞恥心に配慮した取り組みとして、おむつ替え、着替えの時には、他の子どもや外部からの視線に配慮し、目隠しになるものを用意しています。幼い時から全裸にならないよう職員が着替えの順序を伝えて、子ども自身が羞恥心への意識をもてるようにしています。プライベートゾーンについては、子どもが興味本位でのNGな行動が見られた時に伝えたり、隠れている部分の大切さを年齢に応じてわかりやすく伝えていきます。 子ども一人ひとりの人権に配慮し、子どもの気持ちを尊重しています 職員は、子どもの言動を肯定的に受け止め、子どもが自己肯定感をもって過ごせるように配慮しています。子どものできる、できない、優劣を見るのではなく、その子どもの成長している部分を大切に保育に生かしています。そして、職員との信頼関係のうえで、自分の思いを伝え、主体的に活動できるように子どもと接しています。職員は、自身の保育が不適切な対応になっていないか、人権チェックシートで確認しています。保護者には入園時に家庭の意向等を聞き取り、日々のコミュニケーションの中で気持ちに沿った対応になるように努めています。 虐待に関する理解を深め、虐待を未然に防げるように配慮しています 虐待に関するマニュアルを整備し、職員会議や昼礼時に気がついた事など、園内研修で虐待についての知識を深めています。また、他園での事例を周知して虐待への理解を深めています。朝の受け入れ時に、子どもや保護者の様子を確認し、保育中の子どものあざ、何気ない会話など、気になる事があれば、職員間で周知しています。虐待が見られた時には、園長が窓口になり、関係機関と連携をとる体制が定められています。園では、育児相談、一時保育を実施して、保護者の育児への不安軽減に対応できるように支援の窓口を設けています。		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
法人統一のマニュアルをもって業務の標準化を図っています 就労規則、園運営規定、保育の手引き、安全管理、危機管理、衛生管理、個人情報などに関するマニュアルが法人で定められています。保育業務に関して記載した「保育の手引き」は、園での一日の保育の流れ、基本的な生活習慣の年齢ごとの目安、保育担当の職務内容や清掃、けがや病気時の対応など、園業務の指針となる内容を記載しています。保育の手引きは、改定、加筆したものを年度初めに配付し、読み合わせをして内容を確認しています。そして、どの職員も同じように対応することで業務の標準化が図れるように配慮しています。 マニュアルに沿った業務を確認するためにチェックシートを活用しています 業務に必要な各マニュアルは、事務室に保管して、職員は不明なことがあった場合、確認をしています。マニュアルは、年度末に園長、主任、副主任で話をして内容を見直し、確認、改定をし、行政からの指示には随時対応し、最新の対応になるように努めています。手順等は、視覚的に伝わりやすいフローチャートを活用しています。日々のマニュアルに沿った内容を実施するために、午睡チェック表や室内の安全確認について確認表があり、正しい手順での実施に努めています。職員は疑問があった場合は、マニュアルを確認し、先輩からの助言を仰いでいます。 保護者の声、職員の声を園のサービス向上に反映できるように配慮しています 職員の日々の気付き、職員会議、乳児・幼児会議等で改善に向けて話し合いを重ねています。また、懇談会や個人面談での保護者から提案や要望にも積極的に耳を傾けて、対応を検討しています。行事後は保護者アンケートを行なって、次の行事に反映できるように取り組んでいます。例えば、今期発表会の時、大人の参加人数に関する要望があり、次年度の発表会には改善できるように対応を検討中です。職員の気づきや、保護者からの意見、要望を、園サービスの向上に取り入れられるように努めています。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4																						
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36 / 36																					
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当
評価	標準項目																					
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当																				
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当																				
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当																				
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当																				
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当																				
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当																				
評価項目1の講評																						
全職員がクラスを超えて一人ひとりの子どもの状況を共有しています 職員は自分のクラス以外の子どもについても、各クラスと情報を交換し合い、共有しています。子どもの主体性を育む保育については、主任が職員に直接指導し助言しています。子どもたちとのかかわりを通して職員自信が保育室の環境の工夫について考え、環境について子どもに合わせた環境構成を検討しています。保育の実践を通して子どもたちの反応や育ちが見えてくることで、主体性を育む大切さを理解できるよう、日々振り返り、評価、反省を行ない、検討しながら保育実践につなげています。 特別な配慮が必要な子どもに対し、他の子どもとともに育つ工夫をしています 特別な配慮が必要な子どもへは、子どもの特性を考慮した年間の個別支援計画を立て、保育を実践しています。子どもの状況に合わせて職員体制に配慮して対応しています。個人の表現により、落ち着けるよう言葉がけやスキンシップをとりながら支援しています。行事なども子どものペースを尊重し、子どもが表現ができるよう気持ちに寄り添っています。また、集団になじめるよう、職員が声かけするなどして、参加しやすいよう働きかけています。保護者へは一日の様子を伝え、家庭と保育園と同じようにかかわりができるよう配慮しています。 子ども同士のトラブルでは、双方の気持ちを大切にしながら解決に努めています 子ども同士のけんかなどに対しては、クラス担任がそれぞれの子どもの立場を尊重し双方の話を聞き、受け止めるようにしています。また、職員はできるだけ当人で解決できるように見守っていますが、お互いが気持ちに折り合いをつけ、納得できるように話し合いをしています。保護者へは、トラブルの経緯や子どもの気持ちの受け止め方などについて話し、理解を得られるように努めています。噛みつきの場合は、なぜそうなったのか、双方の気持ちを受け止め、気持ちの代弁をするなどして、子どもの気持ちを大切にしています。																						

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当	●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当	●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当								
評価	標準項目																							
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当																						
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当																						
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当																						
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当																						
	評価項目2の講評																							
	子どもの受け入れでは、担当職員が家庭での様子や健康状態を確認しています 朝の登園時に、子ども一人ひとりの健康状態を検温や視診で確認し、家庭での様子について聞き取っています。把握した必要な情報を毎日伝達簿に記入することで、子どもの担任に情報が正確に伝わるように努めています。また、システムでの個別の連絡アプリを確認することで、より詳しく子どもの状態を把握したり、保護者の意向や要望などを把握し、日中の活動に生かしています。 日中の活動では、保育計画に沿って基本的な生活習慣が身につくよう努めています 各年齢の保育の主なねらいに留意しながら、主体性を大切にしながら、基本的な生活習慣が身につくように援助しています。子どもが自主的、自発的に生活し遊ぶように、子どもの興味や発達に適した玩具や室内外の環境を整えています。各クラスの担任は年齢や発達に合わせた保育計画を立て、食事や排せつ、簡単な身支度などが身につくようにしています。午睡については、年齢や保護者の意向を踏まえ、入眠時間を柔軟に設定し、5歳児については就学に向け11月頃から午睡時間を減らしていくなど、個別の対応をしています。 子どもの様子は、クラス活動の全体的な姿や個別の姿を保護者に伝えるようにしています 登降園の際に、子ども一人ひとりの様子を毎日伝達簿を使って伝えるようにしています。連絡帳アプリを使って乳児は詳細な個別の情報を伝え、幼児はクラスとしての活動の様子を担当が発信しています。生活リズムの大切さや基本的な生活習慣の習得として、保護者に理解してもらうことが課題と感じていますが、保護者懇談会や園だよりで呼びかけたり、直接伝えたりして理解へつなげています。毎日の活動内容は、写真とコメントを掲載してドキュメンテーションを作成し、各クラスの前に掲示してお知らせしています。																							
3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当	●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当	●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当	●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当		
評価	標準項目																							
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当																						
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当																						
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当																						
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当																						
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当																						
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当																						
	評価項目3の講評																							
	活動での環境構成を話し合い、遊びの展開につながるよう工夫をしています 各年齢の発達に合わせた様々な活動から、製作活動、リズム遊び、造形遊びなど、子どもたちが主体的に取り組めることを意識しながら取り組んでいます。幼児クラスでは、異年齢保育の実現に向けて話し合い、遊びを広げるために遊びのコーナーの工夫を検討したり、よりよい子どもの育ちへつながるよう職員で様々な話し合いや検討をしています。乳児クラスでは、コーナー遊びの充実に向けて検討し、予算から整えられる玩具、環境構成について話し合いながら取り組んでいます。 異年齢保育で過ごす楽しさを感じ、遊びを通して共感し合える時間を過ごしています 季節に合わせた絵本選びや、自分たちの身の回りの生活や遊びを共感し合えるような時間を過ごしています。幼児クラスでは、異年齢保育を1回テーマを決めて、個々のやりたい遊びや自分を表現することを大切に活動につなげています。乳児クラスでは、朝夕の時間で職員のゆったりとした語りかけにより、言葉の温かさを感じたり、人や環境への興味を拓けています。子どもの気持ちが落ち着かない時などは、廊下の貸出し絵本コーナーなどで過ごすことで、気持ちの切り替えができ、スムーズに集団活動ができています。 様々な活動を通じて、自分を表現する機会を楽しんでいます																							

子どもが主体的に遊べるよう音楽に合わせて踊ったり、劇や製作など行なっています。外部講師の指導のもと、造形、絵画、英語などの活動を行ない、様々な面から子どもの表現活動を楽しめるように取り組んでいます。音楽に合わせて子どもの個々の感じ方で、自由に体を動かしたり、楽器に触れる活動を行なっています。また月に数回、外部の講師と触れ合う機会があり、英語や体操などの指導を受けています。保育室は可動式の扉のパーティションで、オープンフロアにすることができ、広い空間で子どもたちは室内でも十分に体を動かすことができます。

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評			
子どもの日々の活動を季節に合わせた行事につなげています 行事活動では、季節に合わせて、こいのぼりや七夕、クリスマスなどの行事をしています。行事の前には、子どもが興味を持てるよう季節の歌や絵本、紙芝居、エプロンシアターなど行なっています。行事の内容が子どもにわかりやすい簡単な言葉に置き換えたり、子どもの年齢に合わせて一部内容を変更するなど、アレンジして伝える工夫をしています。毎月の誕生日会も定期的に行ない、保護者には行事のねらいも伝え、経過をドキュメンテーションを作成し掲示することで共有しながら行なっています。 子どもたちの意見を取り入れた行事ができるよう援助しています 日々の保育では、職員は子どもの発した言葉や成長を見守る中で、活動に変化をもたせ保育実践を展開しています。また、様々な行事を通して、ひとつひとつの経験が自信につながっています。4、5歳児は毎週水曜日に体操を行ない、チャレンジしてできることをふやすことで、子どもの自信につなげています。大きな行事は、企画から子どもたちで話し合い、製作、装飾すべてアイデアを出し合い、形にしながら作り上げています。これまでの行事や活動を通じて年長児は、最後の園生活で主体性を発揮したことで自己達成感が育まれています。 行事の写真や動画配信を通して、保護者との共有を図っています 保護者には4月に年間行事予定表を配付し、毎月の「園だより」やお知らせにて月の予定を保護者が事前に把握できるようにしています。行事で作った製作物は保育室に飾り、登降園時に保護者に見てもらえるようにしています。また、製作物は保育室に飾ったり、行事を行なった日に持ち帰るなどして、家庭での会話につなげています。行事や日々撮った写真は、各クラスの前に掲示し、保護者へお知らせしています			
5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評			
子ども一人ひとりの生活リズムに配慮して、ゆったりと過ごせるよう留意しています 「全体的な計画」の「延長保育」を基に、子どもたちがそれぞれゆったり遊べたり、休養できたりする環境を整え、子ども一人ひとりの発達に合わせたかわりを心がけています。乳児は子どもの要求に応じて抱っこをしたり、夕方に眠くなった子は少し眠ったりと個々のペースに合わせ、無理なく過ごせるように配慮しています。職員間の引き継ぎは「毎日伝達簿」を活用し、お迎え時の保護者への連絡を職員が伝達内容を確実に伝えられるよう努めています。 子どもの様子は伝達簿を通じて引き継ぎ、生活リズムが崩れないように配慮しています 早朝から登園してくる子どもには、落ち着いて生活ができるように環境を整え、子どもの変化に気を配りながら保育しています。午前中の活動で体を動かした後は室内にて自由遊びを行うなどして、心身の疲れや静と動のバランスに配慮しています。延長保育では、日中の保育環境に変化をもたせ、くつろげる空間を用意するなど、配慮しています。延長保育には、口頭と引き継ぎ簿を活用し、漏れのないよう、クラスの引き継ぎや配慮が必要な子どもなど、担当以外の職員とも連携しながら保育しています。			

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当	
評価	標準項目																			
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当																		
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当																		
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当																		
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当																		
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当																		
評価項目6の講評																				
子どもたちが楽しい雰囲気でき食事ができるよう工夫しています 食育年間指導計画のもと、毎月給食だよりとして「もりのおがわレストラン」を連絡アプリから配信しています。食事の時間をみんなで楽しみながら個々のペースで食事ができるようにしています。食事のマナーが身につくように声かけしたり、食具を上手に使えるよう職員が援助しています。苦手な物は量を調節し、盛られた分は完食できるよう、食べられたという達成感を味わえるよう配慮しています。苦手な物を食べた時や完食できた時には、子どもとともに職員も喜び、たくさん褒めることで自信につながるようにしています。 献立の利点を生かした楽しい食事を提供しています 食事中に栄養士が子どもの喫食状態を確認しています。また、野菜の毎日の残食量などを確認して、伝えていきます。毎月の給食会議で子どもの喫食状況などを報告し、次の献立に反映しています。2週間のサイクル献立ということもあり、苦手な食材も2回目には口にできたり、欠席と重なったタイミングで次の機会に食べられるよう献立の利点が活かされています。子どもによって食べ慣れていないメニューがある時は、盛り付けの工夫をするなど、栄養士と担任が連携し、子どもの食について検討しながら、子どもの成長に向けた体制が整っています。 様々な食育活動を通じて食の関心を深められるように取り組んでいます 毎月の給食会議では、子どもの喫食状況を報告し、離乳食では固形の形状を子どもに合わせて変更するなど、子どもの状況に合わせて食事の提供をしています。献立は、各地の郷土料理を提供し、郷土の文化を伝えていきます。毎年、野菜の苗から収穫までの過程を知る機会を作り、今年度はきゅうり、なす、ピーマン、じゃが芋を栽培し、年長児はさつま芋の収穫体験から野菜の生育を観察しています。世界の料理では世界地図を掲示し、国の場所、献立、特産などを掲示しています。誕生日会や郷土料理、世界の料理などの写真をクラスの前に掲示しています。																				
7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当							
評価	標準項目																			
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当																		
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当																		
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当																		
評価項目7の講評																				
子どもが自ら病気やケガを未然に防げるように援助しています 年間の保健計画を立て、それを基に各クラスの発達に合わせた健康や安全に関する取り組みを進めています。日々の手洗いの大切さについては、手洗いチェッカーの使用や紙芝居での説明で手洗い指導をした後に、子どもと一緒に手を洗うなど、子どもたちにわかりやすく伝えていきます。日々の散歩では、玄関に散歩マップを掲示し、職員が道中で交通ルールを教え、遊ぶ際には危険箇所を確認し、正しい遊具の使い方や遊び方などのルールを繰り返し教えています。また毎月の避難訓練では、自身の安全確保ができるよう繰り返し学んでいます。 日々の会話を通じて、保護者と子どもの健康維持に取り組んでいます 登降園に担任が保護者とコミュニケーションを図り、健康面で何か心配なことなど気軽に相談しやすい雰囲気作りに努めています。年長児は、歯の染め出しを行ない、磨き方の指導をして、虫歯予防や歯の大切さを学んでいます。園長はじめとする職員間で連携をとり、健康面で季節に合わせた健康管理の大切さなどアドバイスをお便りなどで配信しています。保護者と連携しながら子どもの健康維持に取り組んでいます。また、事故など他園で起きた事例を職員と共有し、事故予防に努めています。 感染症の特徴や対応の仕方について知り、自分を守ることの大切さを身につけています 感染症が出た際は、保護者へ連絡アプリや掲示などで感染症の特徴を知らせています。子どもの嘔吐処理等の汚れ物についての対応や家庭での処理法を「ほけんだより」で伝えていきます。感染症予防として手洗い、うがい、マスクの大切さ、咳エチケット、体のしくみ、水分補給、風邪とインフルエンザの違いなど、注意すべきことや自分で身を守ることで健康に過ごすことの大切さを伝え、注意喚起を促しています。昨年はプライベートゾーンについての大切さを伝え、自分自身の身体の大切さを伝えていきます。																				

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	
	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	
	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
	●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評				
保護者の状況等に沿って、適切な対応ができるように配慮しています 保護者の就労状況については、入園の際の面談や日々のコミュニケーションの中で把握しています。急な時間延長や保護者の体調不良時の保育についても快く受け入れています。また、保護者の体調で登園時間が遅れる場合も柔軟に対応しています。園では、それぞれの家庭の事情や保護者の気持ちを受け止めて、保護者が安心して園に子どもをあずけ、就労できるように延長保育や一時保育を実施しています。職員は園全体で保護者とのやり取りを通じて信頼関係を構築し、必要に応じて家庭支援の関係機関と連携をとる体制があります。 職員と保護者の信頼関係が構築できるように節度ある対応を心がけています 職員は、日々の保護者とのコミュニケーションを通じて、信頼関係を構築できるように配慮しています。保護者からの相談は随時受けて、気持ちに沿った対応を心がけています。懇談会の時には、ドキュメンテーションを使いながら、保護者の声を聴き、保護者同士が同じ悩みや思いを相談しやすいようにフリータイムの時間を設けることもあります。さらに保護者同士が交流する機会としては、懇談会、誕生会、運動会など保護者参加の園行事があり、今年度は、運動会で父親だけのソーラン節を演技する機会を設け、保護者が一体となるイベントになりました。 保護者参加型の園行事を通じて、保護者の養育力向上につながるように努めています 個人面談や行事を通して、子どもの成長発達について保護者と共通認識をもてるようにしています。園だより、ポートフォリオで子どもの様子を伝え、個人面談では子どもの育っている部分を共有し、家庭での課題を聞きアドバイスをすることで子育てを共有しています。また、園では集団の中での子どもの育ちの様子を見てもらえるように、発表会など保護者参加行事に声をかけて、子どもの職員や他のお友だちとのかかわり方などを見てもらい、保護者の養育力向上につなげています。				
9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当		
評価項目9の講評				
近隣の資源を活用して、子ども達の心身の発達や様々な経験ができる機会があります 近隣の公園までの散歩の際、保育者は出会う人々に積極的に挨拶し、子どもたちの見本となるよう心がけています。出先で見つけた木の実や葉を季節の作品に取り入れて、四季を感じる機会になっています。食育の取り組みの一環として、地域の人の畑で芋掘りをしたり、大根を商店に買いに出かけたり、季節の野菜にふれています。また、町田市の美術館の絵画コンテストに参加しています。園バスがあるので、遠方の水族館に出かけ様々な海洋生物を見て、子ども達の興味関心をより深めています。子ども達は身近な資源を活用し様々な体験をしています。 子ども達が、園以外の大人や仲間と触れ合う機会があります 園は、中学生の職場体験、実習生、大学生のアルバイト、地域の方の絵本の読み聞かせ、陶芸教室、和太鼓(夏まつり・運動会で披露)など、園に訪れる大人とかかわることで、様々な体験、経験をする機会があります。そして、園以外の大人と交流することでコミュニケーション能力を育んでいます。また、園は地域支援として地域の未就園児家庭に向けて育児相談や保育園体験で、園児と一緒に誕生日を過ごしたり、園行事に参加することができます。子ども達は、この活動を通じて地域の保護者、未就園児との交流を持つ機会になっています。				

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	ニーズに基づく子育て支援イベントを積極的に行ない、参加しやすい工夫をしています	
内容①	地域の子育て支援ネットワークとの情報共有でニーズの把握に努め、保育園の専門性を生かす子育て支援事業を積極的に展開しています。毎月2～3つのイベントを実施して、地域の子育て家庭の参加を募っています。クリスマス会や陶芸教室、毎月の誕生会、親子体操など親子での参加型イベント、離乳食体験や排便メカニズムを学ぶなどの育児講座のほか、親向けの骨盤体操や腰痛体操などを実施しています。行事参加に園見学を組み合わせるほか、子ども中心のイベントと保護者の関心が高い内容を組み合わせるなどの工夫で、毎回定員を満了する予約があります。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	園長が職員と定期的な個人面談を行うことで、チームワークの向上につながっています	
内容②	園長は経験豊かな職員から、若手の保育士まで幅広い層の人材が集まっていることから、一人ひとりと話す機会を作りコミュニケーションを取ることで良好な関係を築くことに努めています。職員一人ひとりの意向を把握することで園の雰囲気作りにもつなげています。また、面談に限らず、日々の些細な会話も大切にし職員の思いにも目を向けています。休憩時間をしっかり取り、他クラスの情報を共有することで職員全体の働きやすい環境となり、チームワークの向上につながっています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	園行事、保護者同士の交流を通じて養育力の向上につなげています	
内容③	多様化する生活状況のなか、園では、ありのままの保護者の状況を受け入れ、必要な支援になるように努めています。保護者が子どもの育ちの悩みを一人で抱え込まないように、日々のコミュニケーションや面談を通じて、育児への不安、課題をくみ取れるように努めています。そのうえで保護者との信頼関係を構築し、保護者の悩みを汲んで、改善につながる方法を提案するようにしています。また、園とあまり接点のない保護者には園行事を通してつながりをもち、さらに他の保護者との交流の場になるように取り組み、保護者の養育力の向上につなげています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員一人ひとりが自分の役割と責任を果たすべく、活発なコミュニケーションと業務改善に取り組んでいます
	内容	園に必要なことや課題について職員一人ひとりが気づけるよう、園長と主任、副主任、リーダー層の話し合い、さらに全職員へと共有する機会を大切にしています。多くの職員が業務に責任感をもってあたれるよう、保育について自分の言葉で発言できるようグループワークなども取り入れています。さらに、保育支援アプリの活用や改良、書類の作成方法の見直しなどを通して、職員自身が時間の使い方を意識した業務改善に努めています。また、業務や互いの負荷の見える化に取り組み、職員同士が声をかけ合い、支援し合うことで組織力が向上しています。
2	タイトル	ドキュメンテーションを整備したことで、より保育園の取り組み内容が感覚的に伝わるように工夫しています
	内容	ホームページにあるブログでは、子ども達が遊びや行事に取り組む姿を掲載し、保護者の見えない時間の子どもの活動の様子が伝わるよう工夫しています。園では全クラスのドキュメンテーションのファイルを保護者の目に届く場所に置くことで、子ども達の活動や成長の様子を保護者同士で共有することができるようになり、保護者に指導計画をかみ砕いて伝える一つの方法になっています。園はこのドキュメンテーションをより効果的に、感覚的に伝わるポートフォリオを用いて、保護者へ子どもの活動内容を詳細に伝わるように工夫しています。
3	タイトル	子どもが主体となり子ども同士の育ちが育まれるようにしています
	内容	幼児クラスでは主体性保育を目指し、3～5歳児合同の縦割り保育に取り組んでいます。異年齢でかかわることでお互いの違いや個性を受け入れ、心地よく生活できる距離感を自然と身につけられるようにしています。また必要な「学び」は生活や遊びの中から身につくようにし、子どもが主体的に様々なことに興味や関心を持ち、友だちと調べたり教え合ったりするなど、子ども同士がつながり合える保育を実践しています。乳児クラスでは、職員との信頼関係のもとで安心して自分を表現でき、安定した生活が送れるように丁寧にかかわる保育を実践しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園のさまざまなリスクについて、職員だれもが円滑に対応できるよう対応手順の掲示等さらなる工夫の継続的な検討に期待します
	内容	園独自の危機管理マニュアルを整えており、さまざまなリスクに対しての対応手順を明確にしています。事故発生時の対応については、園内研修でも想定した事象に対応するシミュレーション研修を行ない、職員の理解を深めています。さらに、発生の可能性の高い事故、また対応についてより円滑に行なう必要があるリスクなどを職員間で話し合い、マニュアルの多岐にわたる内容からの抜粋や対応手順のフローチャート化など、緊急時の対応をだれもが同様に行える工夫にも期待します。
2	タイトル	子どもの人権配慮についての外部研修受講への取り組みの継続が望まれます
	内容	園では、一人ひとりをありのままに受け止めて保育に取り組んでいます。否定的な言葉や比喩的な言葉使いなど、不適切な保育につながらないように、チェック表を用いて確認をしています。万が一にも乱暴な言葉使い、強迫する言葉などを園内で見聞きすることがあれば、全体で周知して改善につなげる体制があります。また、研修受講後は研修報告で内容を共有しています。子どものためと思う声かけでも、子どもの気持ちを傷つけたり子どもに歪んだモラルを伝えてしまう場合もあるため、積極的な外部研修も園では検討しており、取り組みの継続に期待します。
3	タイトル	苦情・相談の解決体制や仕組みについて、より保護者の理解を深めるために、入園後も継続して周知していくことが期待されます
	内容	園長はじめ職員は、日ごろから、保護者とのコミュニケーションを積極的に図りながら、相談しやすい環境を心がけています。苦情や相談の受け付けや解決の仕組みについては、重要事項説明書に沿って、入園時に保護者に説明しているほか、園の玄関に掲示して周知を図っています。今後はさらに、保護者懇談会や園だより、掲示などを活用して、入園後も苦情や相談の受け付け及び解決の仕組みや第三者委員の存在について伝える取り組みを行なうなどして、保護者の理解を深められるよう、継続的に周知を図ることが期待されます。